



医療安全通信 第51号

【薬局部 医療安全委員会】

医療安全推進のため、Pharma Bridgeを通じて、医療安全上の周知すべき情報やタイムリーな話題を随時発信いたします。業務手順書の書換えや日常業務にお役立てください。

イナビルの「吸入確認」と「吸入練習」について

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業の「共有すべき事例」2018年 No. 4には『イナビルの吸入確認後の処方提案』についての事例が掲載されています。
http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/pdf/sharing_case_2018_04.pdf

- ◆ **事例の内容** 【原文のまま抜粋】
 4歳の小児に、イナビル吸入粉末剤20mg 1キット1日1回2吸入が処方された。薬剤交付時、患者にイナビル吸入粉末剤20mgの吸入確認用の笛を使用したところ、音が出るまで吸入することができなかつたため、吸入粉末剤の使用は難しいと判断した。処方医に連絡し、タミフルドライシロップ3%への処方変更を提案したところ、タミフルドライシロップ3% 2.0g分2朝夕食後5日分に処方変更となった。
- ◆ **背景・要因**
 処方医は小児科医ではなかつた。吸入可能な年齢の判断が難しかった。
- ◆ **薬局が考えた改善策**
 処方された薬剤と患者の家族から聞き取った情報を照らし合わせ、年齢に適した薬剤であるか確認を行う。患者にとって、より適した薬剤があると判断した場合は、処方医に処方提案をしていく。
- ◆ **事例のポイント**
 ○吸入粉末剤は、エアゾール剤のように噴霧と吸気を合わせる必要がなく自分のタイミングで吸入できるが、ある程度の吸気が必要のため、幼児や高齢者、呼吸機能が低下している患者には使用が難しいことがある。
 ○処方された薬剤が、患者にとって使用可能な剤形であるかを確認し、もし使用に不安がある場合は、他に患者に適した剤形があるかを検討して処方医に提案することが必要である。

イナビルは1回の吸入で治療が完結するため、服薬の利便性、コンプライアンスの向上が期待される反面、医師・薬剤師の指示通り吸入できたかが治療効果に大きな影響を与えます。特に低年齢児に処方する際には、イナビルの吸入が可能か否かを慎重に判断する必要があります。特に製造販売元の第一三共株式会社は、吸入力を確認するための笛を医療機関に提供しています。この吸入確認用笛は、**実際の吸入容器からイナビルを吸入可能な力以上で吸った場合に音が鳴るように設計されており、初回で音が鳴らなかった場合には、再度動作を繰り返して吸入練習をすることができます。**吸入練習をせずにイナビルを使用すると10歳未満の6割以上、10歳代や20歳以上でも1~2割に吸入力不足による失敗の危険性があり、**5回程度の吸入練習により全例に必要吸入力を得られた**という報告があります。患者負担を考慮し、吸入練習は5回程度を目安とし、それでも音が鳴らなかった場合は他剤への変更を検討することが必要です。



主なインフルエンザ治療薬

投与経路	商品名	一般名	投与回数
内服	タミフル	オセルタミビル	1日2回、5日間
	ゾフルーザ	バロキサビル	単回
吸入	リレンザ	ザナミビル	1日2回、5日間
	イナビル	ラニナミビル	単回
点滴静注	ラピアクタ	ペラミビル	単回

現在、10歳以上の未成年の患者はタミフルの使用が原則禁忌ですが、厚生労働省は、タミフル服用と異常行動について明確な因果関係は不明とした調査結果を踏まえ、10代患者に対する使用差し控えを解除して、インフルエンザが流行シーズンに入る11月迄に添付文書の改訂を指示する方針です。

患者の特性と薬の特徴を考慮して、適切な処方提案を行いましょ。

《参考文献》

- ・川原弘明, 他: ラニナミビルを投与前に行う吸入力確認及び吸入練習の有効性について, 日本プライマリ・ケア連合学会誌 2017, vol. 40, no. 2, p. 109-111
- ・日経メディカル: インフルエンザ診療Next: トピックス 外房こどもクリニックの黒木春郎氏に聞く 5歳以上の症例ではイナビル吸入が十分可能 吸入確認用笛で吸入可否を事前に把握 2013/1/9

旭川薬剤師会公式サイトに医療安全通信のバックナンバー、掲載資料、リンク先を掲載しています。

